



トマト育苗施設の増設計画は

町長 支援について検討したい

宮澤 清士 議員

一次産業の更なる発展を

質問 下川町が今後とも発展していくには、一次産業の更なる発展が最優先課題と思う。そこで次の点について質問する。

一点目として、今年、麦・蕎麦生産者が募り、農産物の生産加工販売等を目的に「株式会社」を設立し、既存の麦乾燥施設をコンタミ防止のため蕎麦の乾燥施設に整備したが、それに対しての助成措置はあるのか。

二点目に、過去2回質問した、トマトの育苗ハウスだが、来年も作付けが増える見込みであるが、この増設計画の有無について。

三点目に、ICT農業の町としての取り組みについて、町長の所見を伺いたい。

町長 一点目の蕎麦の乾燥施設整備に対しての助成措置については、町として直接助成はしていない。

二点目のトマト育苗ハウス増設計画の有無については、敷地の問題や経常的にかかる経費の問題もあり、町単独での増設計画は考えていないが、JA北はるか下川支所が、現在、育苗施設の整備について検討しているとのことから、町としても協議し、支援についても検討したいと考えている。

三点目のICT農業については、最近ではドローンを活用した画像認識による作物管理など、スマート農業に取り組んでいるところもあるが、本町でのICT導入については、農業者の意向や導入に伴うコストや効果など、活用を見据えて、JA北はるか下川支所など関係機関と議論を進めることが必要であると考えている。

再質問 整備した蕎麦の施設について、これから発生してくる貸付料等に対しての助成措置を構想することが

できないか、町長の考えは。

町長 現行制度の中でやれるものであれば検討の余地があるが、現在の進め方の中では非常にハードルが高い。

今後、運用の中でいろいろと協議をし、その制度の中でやれるものがあれば、町としても進めていくことができるかと思う。時代に合った制度改革というのは、

その時流時流でやっていく必要があると思うので、部内でも協議、あるいは専門家にも聞きながら進めていきたい。

再質問 要請があった場合は前向きに取り組んでほしい、また育苗ハウスの増設は喫緊の課題であり関係機関と連携し取り組んでいたきたい。

再質問 要請があった場合は前向きに取り組んでほしい、また育苗ハウスの増設は喫緊の課題であり関係機関と連携し取り組んでいたきたい。



蕎麦の収穫作業